

ご挨拶

International Society for Applied Ethology (ISAE) Japan 2015
国際応用動物行動学会 2015 日本大会 開催にあたって

2015年9月に、標記国際応用動物行動学会 (ISAE) 第49回大会が日本で開催されることになりました。大会長として一言ご挨拶申し上げます。

この学会は1960年代中頃に、当時急激に集約化されつつあった家畜生産の現場で起き始めた種々の問題を、従来の家畜育種学や栄養学とは異なる視点、すなわち行動学という新たな視点から取り組み解決を模索することを目的に、国際的な研究者らが集まって設立されたものです。特に1973年にK.ローレンツ博士とN.ティンバゲン博士が行動学でノーベル賞を受賞し、行動学を意味するEthologyという言葉とともにこの分野を広く知らしめたことも、本学会を発展させる起爆薬ともなりました。現在、この学会のメンバーは欧米のみならず、アジアやアフリカにも広がっておりますが、ヨーロッパおよび南北アメリカ以外で大会が開催されたのは2005年の日本大会が最初でした。

我が国ではこの分野は家畜管理学や草地学の中の放牧行動の追究といった観点から研究が行われましたが、70年代中頃から徐々にEthologicalな視点を持った行動研究者が活躍し始め、80年代には「家畜行動の小集会」という研究会が設立されております。そしてこの組織を母体として、2004年に我が国に国際応用動物行動学会が設立され、2005年には国際学会であるISAEを日本に招聘し開催いたしました。このように我が国における国際応用動物行動学は、ほぼ世界と歩みを同じにして発展してきており、国際誌等への論文掲載数等から見ても我が国のレベルはこの分野の研究レベルは勝るとも劣らないものと自負しております。

2005年に我が国で開催されたISAEは当時の若手研究者や大学院生に非常に大きな影響を与え、それが現在の我が国の国際応用動物行動学のさらなる発展につながったと思われまふ。この度、ちょうど10年を経て国際応用動物行動学会ISAEが2015年に日本で開催される運びとなりましたが、この大会の企画・運営を支えているのは当時の若手です。また当初は家畜の行動を中心としていた本学会も、その範囲を大きく広げ、家畜のみならず伴侶動物(ペット)や展示動物(動物園動物)、さらに農作物に被害を与える有害動物の行動もその範疇に含むようになって来ております。すなわち現代の社会生活の中で、ヒトと関わりのある動物の行動すべてが対象であります。私ども研究者だけでなく、市民生活と密接に関連した動物たちの行動を追究する学問分野といえまふ。

この国際応用動物行動学会ISAEは決して大きな学会ではなく、参加者は世界中から集まるとはいえ300人程度です。しかしながら、やはり国際的な学会でありますので、その開催・運営は決して容易なことではありません。皆様のご指導・ご協力が是非とも必要なところであります。どうか絶大なご支援を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。

大会長 近藤誠司 (北海道大学大学院農学研究院 特任教授)

The 49th International Congress of the International Society for Applied Ethology (ISAE2015)

主催: 第49回国際応用動物行動学会議大会委員会、応用動物行動学会
共催: 日本家畜管理学会
後援: 日本畜産学会、日本動物行動学会、日本動物心理学会、ヒトと動物の関係学会、豊長類学・ワイルドライブサイエンス・リーディング大学院

開催期間 2015(平成27)年9月14日(月)~9月17日(木)(4日間)
開催場所 北海道大学 学術交流会館(札幌市北区北8条西5丁目)
会議のテーマ Ethology for sustainable society(持続可能な社会のための行動学)

会議の概要
本会議の主催母体は、1966(昭和41)年に「集約的畜産における行動的問題」に対処するために欧州を中心に設立された獣医行動学会(Society for Veterinary Ethology: SVE)であるが、その後、家畜から「ヒトと関わるあらゆる動物」への研究対象の拡大と研究者の国際的拡大に伴い、その名称を1990(平成2)年に、国際応用動物行動学会(International Society for Applied Ethology: ISAE)へと発展的に変更し、現在に至っている。
当学会で扱う主なテーマは、家畜・展示動物および実験動物の飼育環境の評価と改善(アニマルウェルフェア、環境生理、施設工学、環境保全)、伴侶動物とヒトとの関係の評価と改善(環境認知、問題行動の予防と行動治療)、野生動物管理(行動および個体数の管理)であり、所属会員(約550名)は、ヒトによる動物利用および共生に関係した動物行動学に基づく基礎的・実用的研究成果を、国内外の学術雑誌に広く

投稿するとともに、国際会議を毎年(ほぼ1年おきに欧州とそれ以外の地域で)開催し、国際的な情報共有を図っている。

日本における開催は、極東(アジア)地域初の開催となった前回の2005年の麻布大学(神奈川県相模原市)以来10年ぶりとなる。今日におけるアニマルウェルフェアの認知度の向上(我が国を含む国際的および飼育現場での普及)とOIEによる国際標準化や各国・地域での法規制等の具現化は、まさに当学会から発信された研究成果情報に因るところが大きい。我が国においても、家畜のみならず、伴侶動物や実験動物を含む、ヒトと関わる動物のいわゆる動物愛護管理法等の法規制整備や改正にも、当学会とその周辺関連学会発の科学的データが参照されている。このような国際的な動向を受けて、極東(アジア)地域においても中国や韓国、あるいはインドやタイをはじめとする南あるいは東南アジア諸国でも、アニマルウェルフェアへの関心と対応を急速に進めている。したがって、2015年における日本での開催では、それらの国々からの参加者も期待されている。

また、国内的には、中山間地域における野生動物との軋轢が顕在化しており、過疎化・高齢化と相まって、地域社会を将来にわたり持続的に維持していくことが困難に直面している。野生動物の管理技術開発は、本学会の主要な研究テーマのひとつであり、会員は行政機関(環境省、地域自治体)のみならず現場(農家や関連企業等)とも協働して、問題解決の技術的糸口を求め日夜研鑽を積んでいる。

そこで、本会議は「持続可能な社会のための行動学」をメインテーマに据え、今後の国際的および国内的な地域社会の持続的発展のために、諸外国からの研究者の参加を得て、ヒトと関わるあらゆる動物の行動と管理に関する英知を結集することを目的として開催する。

寄付を必要とする理由

このたび、第49回国際応用動物行動学会議(ISAE2015)が、2015(平成27)年9月14日(月)~9月17日(木)の4日間に、北海道大学 学術交流会館におきまして開催される運びとなりました。本会議の運営につきましては、できるだけ簡素、質素を旨として、参加費を主な収入源とした開催費用の支出計画を立ててはいるところですが、一方で、学生等の若手研究者には、彼らの参加を促し、国際的な経験を積んでもらうため、その参加費を極力低く設定しております。そのため、参加者からの会費だけでは、会議の円滑な運営が困難な状況にあります。つきましては、諸事御多端の折、誠に恐縮に存じますが、本会議を盛り多きものとするため、また国際的視野を持った若手研究者を養成するため、学会開催の主旨にご賛同いただき、格別のご支援、ご助力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

募金要項

- 募金の名称 第49回国際応用動物行動学会議
- 募集期間 2014年10月14日~2015年9月13日
- 会議直前までご寄付は可能ですが、2015年6月30日頃に講演要旨集の入稿期限が設定されており、それ以降は特典のうち講演要旨集の寄付者リストへの掲載ができなくなります。寄付はなるべくお早めにお手続きいただけますようお願いいたします。
- 寄付金の使途 第49回国際応用動物行動学会議の準備および運営ならびに若手研究者への援助

- 募金責任者 矢用健一(募金委員会委員長)
- 募金の詳細 法人・団体等: 1010,000円(できれば30以上をお願いします)
- 募金への特典
 - 1~2口(ブロンズ) 会場での発表の合間でのスライド掲示・講演要旨集の寄付者リストへの掲載(1/8ページ)・会議 HPへの掲載(小)
 - 3~4口(シルバー) 会場での発表の合間でのスライド掲示・講演要旨集の寄付者リストへの掲載(1/2ページ)・1名参加無料・会議 HPへの掲載(中)
 - 5口以上(ゴールド) 会場での発表の合間でのスライド掲示・講演要旨集の寄付者リストへの掲載(1ページ)・1名参加無料・会議HPへの掲載(大)・会議HPでのバナーリンク
- 会議予算総額 500万円
- 寄付金の払い込み方法 ゆうちょ銀行 記号:18320 番号:12799901 口座名義:2015年国際応用動物行動学会議実行委員会(他金融機関からの振込の場合) 銀行名:ゆうちょ銀行 店名:八三八(読み:ハチサンハチ) 店番:838 預金種目:普通預金 口座番号:1279990 口座名義:2015年国際応用動物行動学会議実行委員会